

# 第35回 支店長のわがまち紹介

## 茨城県潮来市

茨城の玄関口として鹿行地域の情報を発信する

嫁入り舟 (写真提供 潮来市)

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第35回は潮来市です。筑波銀行は市内に営業店を設置し、潮来市の皆さまと密接な関係を築いています。潮来支店長の稲葉光雄が潮来市長原浩道氏、総務部長柿崎純一氏、環境経済部長吉川博美氏、総務部秘書政策課情報発信マネージャー小関かすみ氏にお話を伺いました。

### ●潮来市が一番と考えていること、自慢できることはどのようなことでしょうか

潮来は周辺を北浦、霞ヶ浦、常陸利根川など湖や河川に囲まれている水郷地帯です。江戸時代は、まちの中を水路がめぐり、江戸と東北諸藩の交易地として繁栄し、多くの文人墨客が訪れました。また水戸藩の飛び地として遊郭もあったことから、藩御領金の三分の一を占めた時代もありました。古くは葛飾北斎が「富嶽三十六景・常州牛堀」を描き、近年は村山密、小堀進といった一流の画家を輩出、文化芸術に関心が高いのも潮来市民の特徴です。

800年間続く「潮来祇園祭禮」や、今年で65回を迎える「水郷潮来あやめまつり」(平成28年5月28日～6月26日開催)など、歴史のあるお祭りやイベントが一年を通して行われています。20数カ所もの神社仏閣があり、街中を歩くと、至る所に大小様々な寺社が点在しているのもお祭りの多いまちならではのです。

数多くの催しの中でも「水郷潮来あやめまつり」は70年以上前に始まったといわれている潮来を代表するイベントです。みどころの一つ「嫁入り舟」は、実際に水郷地帯で行われていた嫁入りの様子を再現したものです。昭和30～40年代まで、市民の主要な移動手段は舟であり、嫁入りも舟を使って行われていました。この嫁入り舟は人気が高く、本市を発祥の地として、今では佐原や浦安など他の水郷地域でも実施されるようになりました。

潮来は稲作を中心に農業が盛んです。東京方面から東関東自動車道で本市に近づいてきた時に水

田と河川が目の前にぱっと広がる風景は素晴らしく、都会の人を引き付ける魅力があります。

しかし水に囲まれているため、これまで水害や災害に見舞われることもありました。平成23年3月の東日本大震災では、日の出地区が液状化により家屋が傾いたり電柱が曲がったりする被害を受けました。地盤を強化するため、地中に排水管を張り巡らせて地下水の水位を現在より下げる復興工事を5年間かけて行い、平成28年4月より常陸利根川に地下水を流すポンプ場の運転が始まりました。この工事が住宅地で行われたのは全国で初めてです。今後は道路の4車線化、電柱の地中埋設などを実施し、街並みが整備されます。現在、日の出地区は4割近くが空き地になっており、ここに住民が戻り、移住者も増えることが現状の課題です。

潮来の河川はウォータースポーツにも適した環境として知られ、常陸

利根川は、流れが穏やかで川幅が広く、ボートの練習場や競技場が整備されています。毎年、水郷潮来市民レガッタを開催し、住民もボート競技に親しんでいます。平成31年(2019年)の茨城国体ではトライアスロン、ボート、水泳(オープンウォータースイミング)の3競技の開催が決定しました。さらに、平成32年(2020年)の東京オリンピックでもボート競技を中心にキャンプ地の誘致に取り組んでいます。



日の出地区の街並み (写真提供 潮来市)



原市長

吉川部長

柿崎部長

小関マネージャー

稲葉支店長

郷の面影が残り、嫁入り舟のような地域資源もあります。成田・羽田空港や茨城空港、東京都内からもアクセスが便利という、このポテンシャルを最大限活かすためにも、観光の

●今後の展望についてお聞かせください

東京と本市・神栖市・鹿嶋市を結ぶ高速バスと、各市をつなぐ公共交通網の整備は各市で取り組んでいます。単独ではなく、鹿行地域が広域で進めなくてはなりません。今年から行方市・鹿嶋市・本市で連携し、潮来駅→日の出地区→潮来高速バスターミナル→道の駅いたこ→なめがたファーマーズヴィレッジ→鹿嶋大野駅まで行くバスを運行し、いずれは神栖市や香取市とも連携を広げ、広域に公共交通を整備したいと考えています。東関東自動車道潮来ICがあることで、本市は茨城県の玄関口の役割を果たしています。鹿行地域には他にも鹿島神宮、太平洋、銚田・行方の農業、神栖の工場群、鹿島アントラーズといった多くの地域資源があります。これらを見て回り、体験してもらうには、公共交通機関の整備は不可欠であり、引き続き、他市と連携して取り組んでいきます。

企業誘致に関しては、住宅地の開発を優先に進めたいと考えています。昭和30年代後半に始まった鹿島開発では、本市を居住地に位置付ける構想もあり、今でも、神栖市・鹿嶋市のいくつかの企業が社宅を本市に建ててくれています。静かな環境で子育てが出来、農水産物も豊富、病院もあり、上下水道も敷設したばかりであること…等をアピールしていきます。また観光で来てくれた方に移住してもらうことや、二地域居住というかたちで居をこの地域に構えていただくことも必要かと思っております。

まちをつくるのは行政ではありません。「開発」というきっかけは行政がつくったとしても、まちをつくり上げていくのは市民や民間企業との協働が不可欠と思っております。あやめまつりも現在は市の主導で進めていますが、いずれ民間主導にして、収益を上げ雇用を生み出すような仕組みをつくっていきたくですね。

平成28年4月から市役所に情報発信を担う部署を新設して、国内外へのPRに力を入れ、インバウンド対策を進めています。外国人観光客の嗜好は、買い物から日本の文化に触れて楽しみたいというものに変わりつつあります。本市は古き良き日本の水

受入れ体制をしっかりと整えていかなければなりません。例えば、茨城空港着→水戸→東京→関西方面→潮来→成田空港発など人気のゴールデンルートに「潮来」を組み込んだ大胆なコースもエージェンツに働きかけていきます。宿泊施設や飲食店も多く、夜のにぎわい感が必要なため、「宵の嫁入り舟」やあやめ園のライトアップなどを行います<sup>(注)</sup>。また、潮来祇園祭は少子化もあり、お祭りの運営をどう維持していくのかも課題となっています。また国際観光という視点から、外国からの観光客に楽しんでもらえる演出も加えてはどうかと考えています。インバウンド対策は道の駅いたこに免税品コーナーを設置、ホスピタリティやおもてなしに関する観光面の改善も重点的に行ってきました。あやめまつりの時期以外にも潮来を楽しめるように、北利根川沿いにコスモス畑をつくり、秋の潮来も楽しんでいただくようにしていきます。今後も、首都圏からの情報やニーズをキャッチし、鹿行地域の観光の情報発信地としての役割を果たし続けていきます。



近頃、自治体間競争が激しくなってきたと言われていますが、健全な競争とお互いの連携が今後は必要と考えます。鹿行地域全体のポテンシャルを上げるために、各市が得意分野を生かして役割分担をして発展していくことも必要と感じています。

●筑波銀行に期待することをお聞かせください

まちの活性化と銀行は密接なつながりがあります。本市は地域創生で東京への通勤・通学者に対し、助成金を交付し、人口増を図ります。これらの政策と連携していただき、住宅ローンや教育ローン、学資保険の金利の優遇などの経済的なメリットをどんどん市民に提供してもらいたいと考えています。潮来支店だけでなく、鹿行地域の各支店で情報を共有し、それを地域や行政に還元してもらい、地域をさらに協働で盛り上げていきましょう。

(注) あやめまつり期間中

(文責：筑波総研株式会社 主任研究員 國安 陽子)